



定期健康診断の便検査は何のため?

定期健康診断の便検査は「便潜血検査」です。これは、血液に含まれるヘモグロビンをチェックする方法が一般的に用いられています。便を別々の日に採取する2日法が主流で、「便潜血陽性」となった場合は、「採取した便に、血液が混じっている。」ということです。便潜血検査で、進行がんの約90%、早期がんの約50%、腺腫などのポリープの約30%を見つけることができ、それにより大腸がんによる死亡率を約60%下げることが報告されています。便潜血検査は、2回のうち、1回でも陽性反応が出た場合は陽性として精密検査を受けることが必要です。



●便潜血が陽性になる原因は?

便潜血検査で陽性になる疾患は色々あります。便潜血陽性のうち、約3%が大腸がん、約30%が大腸ポリープ、その他には炎症性疾患や痔等があります。

(1)大腸がん

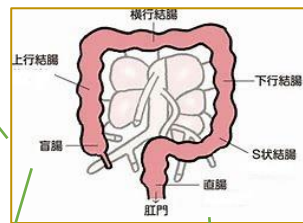
大腸部分(結腸・直腸・肛門)に発生するがんで、部位別罹患率では第1位(2019年)、死亡数では第2位となっています(2020年)。大腸がんのうち、腺腫が悪性化するものと、正常の粘膜から発生するものがあります。



(2)大腸ポリープ

大腸の粘膜が隆起してできたもので、ポリープの構造により、腫瘍性・非腫瘍性に分けられ、大腸がんになる可能性があります。腫瘍性ポリープの「腺腫」です。腺腫のうちポリープを取ることで大腸がんを予防することができます。精密検査の結果、腺腫で経過観察となった場合は、健康診断の便潜血検査結果に関わらず、必ず主治医の指示通りに大腸内視鏡検査を受けましょう。

＜大腸の構造＞



(3)炎症性腸疾患

(クローン病・潰瘍性大腸炎)

免疫機能の異常により、自分の免疫細胞が腸の細胞を攻撃することで、腸に炎症を起こす病気です。症状は個人差がありますが、慢性的な下痢や血便、腹痛等があります。比較的若い人に多く、患者数は年々増加傾向です。

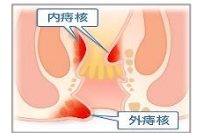
(4)その他

①大腸憩室炎

腸壁が外側に飛び出た「憩室」の中で細菌が繁殖して炎症を起こし発症します。大腸の中でも上行結腸やS状結腸に多く、腹痛や軽度の発熱の症状が出ます。

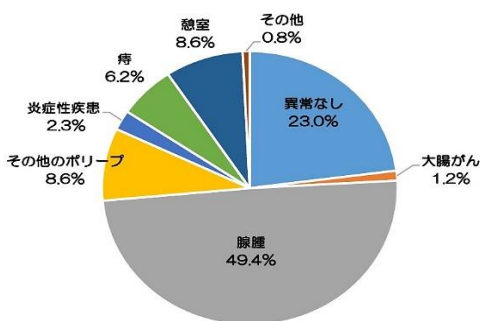
②痔

肛門の内側にできる内痔核と外側にしこりが生じる外痔核があり、出血しやすいのは内側にできる内痔核です。



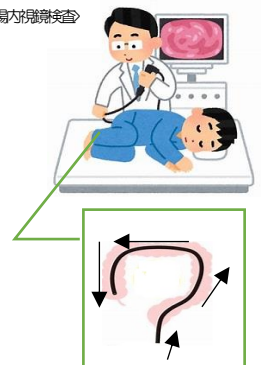
●便潜血陽性と言われたら・・・精密検査を必ず受けましょう!

＜R3年度 精密検査の結果＞



左図はR3年度の定期健康診断で便潜血検査が陽性で精密検査を受けた人の結果です。大腸がん、放っておくと悪性化する可能性がある腺腫などを合わせると約5割を占めている状況です。精密検査を受けて、異常なしの人は約2割となっています。便潜血検査陽性で、「もともと痔があるから大丈夫」と、自己判断して放置するのは危険です。必ず精密検査を受けましょう。

＜大腸内視鏡検査＞



便潜血検査陽性の精密検査は「大腸内視鏡検査(生検含む)」です!!便潜血検査の再検査は精密検査になりません。ご注意ください。

参考: 日本医師会HP、日本消化器学会HP、
日本人間ドック学会HP

福利課健康支援係
電話: 011-231-4111(内線: 35-380)